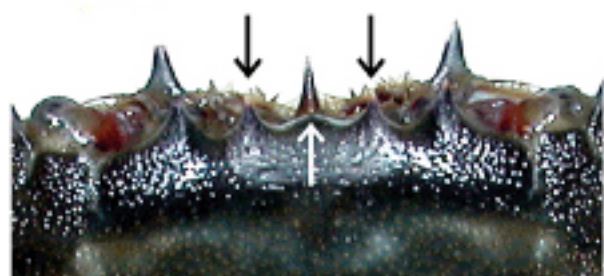


ガザミの別称はワタリガニ（渡りがに）です。小さなカニは流れ藻に付着しながら潮流に乗って移動します。流れ藻にはさまざまな小動物が付いており、ガザミはこれらを餌として成長します。流れ藻が腐敗して消失するころに流れ藻から離れ、親になる場所へ定着します。

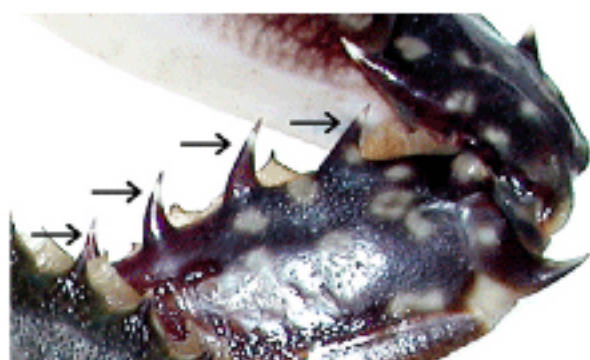


ガザミの額歯。黒の矢印は左右の額歯を、白の矢印は中央の額歯を示す。写真個体は1ページと同一。

浦戸湾や土佐湾沿岸では、ガザミは他のワタリガニ科のカニより希少な存在です。

ガザミは台湾ガザミの雌とよく似ています。台湾ガザミは浦戸湾にたくさん生息しています。

す。ガザミは額歯が3本で、中央の額歯が小さいという特徴をもちます。この歯は成長するにつれ短くなります。また、ガザミのハサミ脚の長節（ハサミから2番目の節）の前縁には4本のトゲがありますが、台湾ガザミはこのトゲが3本です。



ガザミのハサミ脚の長節にある4本のトゲ。写真個体は1ページと同一。

ガザミは味がよいので、日本の各地で養殖され、稚ガニが放流されています。カニといえども北の海のカニが頭に浮かびますが、ガザミは南日本を代表する食材のひとつなのです。

2004年8月11日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。